



### 白沙村の人々

ここではのどかな農村風景が展開されていた。藍染めの野良着を着たお年寄りが歩き、道路で野菜の皮むきをしている。奥では新しい家が建てられている。薪を積んだ小屋が有るのは、炊事に竈が使われているのだろう。

農作業は村の外で行われているのだろう。若い人たちの姿はあまり見かけない。地元の人らしいのは老人と子供たちである。



村で散歩している、働いているお年寄りの顔は皆色艶が良い。赤ん坊を負ぶっている姿、秤に古びたトラックと一昔に戻った光景で懐かしい。下右の写真に写った観光客らしい一行は日本から訪れた、私の同行者たちである。

麗江で撮った納西族の民族衣装特有のたすきがない。普段はしてないのかもしれないと思っていたら、

麗江で撮った納西族の民族衣装特有のたすきがない。普段はしてないのかもしれないと思っていたら、



正装姿のおばあさんを見つけたので撮らせて貰った。欲張って横からも撮影させてもらう。年齢はわからないが姿勢が良い。頭に被った布もお似合いだし、耳にはイヤリングもつけている。

年寄りだけでなく、もちろん若い人たちや子供も歩いている。



若い人たちが普段に民族衣装を着ている姿を見かけることはない。何かの行事でもないとなることがないのだろう。

下右の後姿のカップルは旅行者だろう。旅行者をちらほらと見掛けるが団体客はいない。ここはまだマイナーな場所なのだろう。





村の中を散策しているとこの風景に溶け込む感覚になる。ここで生活している人々に思わず声を掛けたい。そんな雰囲気はまだ残されているのだ。

左の写真は酒場の一角にある麻雀台である。村の雀荘という感じだ。他に娯楽施設がないらしい。村の社交は茶館でお茶を楽しむか、麻雀をするくらいだ。青空の雀荘では通りがかりの人が観戦していた。



このままの状態を残しておきたい村だが、世界遺産麗江に組み入れられてそうは行かないのだろう。観光客目当ての商店も見かけてきているし、改装をしている建物もある。赤い石が積んであるのは石畳や水路の壁に使うのだろう。あまり替えてもらいたくないものだと懸念している。